

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		リカバリーここあ					公表日		令和6 年 10月 18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・障害物をなるべく減らしている ・机の角や脚にをクッションガードをして怪我をしないようにしている	・利用児童が多い日は、狭く感じることもある ・ワンフロアのため、児童の大きな声が響いて、他の児童に影響することがあるが、個室を設けることは難しい				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		・看護師を含め、職員は十分な配置がされている					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・バリアフリーで、クッションマットにより、居場所を分かりやすく分けている	・基本的にバリアフリーだが、場所によっては段差がある ・個室が無いので、落ち着ける場所が欲しい				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・必要に応じてテーブルやマットの配置変えをしている					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・カーテンや衝立で、個別の場所を作るようにしている。今後も、カーテンや衝立の仕切りを更に設ける予定	・個室があると更に良い ・カーテンや衝立で、個別の場所を作るようにしているが、人数が多いと不足したり狭いことがある				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・各々、個別支援計画を見直したり、良い支援方法があれば、話し合って決めていくようにして、ほぼPDCAサイクルになっている					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ミーティングで、保護者評価表を共有し、改善を話し合っている					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・月1 ミーティング等で意見を出し合い、業務改善している					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・高額の費用がかかるため、行っていない				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・社内、社外の研修を受講し、レポートを提出し、情報共有している					
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ある程度の支援プログラムがあるものの、公表はしていないため、今後、公表する予定					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・アセスメントは、なるべく多くの職員が参加して作成している。その上で保護者と良く話し合って、個別支援計画を作成している。また、医療的ケアのある児童の個別支援計画の面談は、看護師も参加している					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・ミーティングで、看護師を含むなるべく多くの職員が参加して、支援についての意見や共通理解を持ち、計画を作成している。					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・各々、個別支援計画を見直したり、ミーティングで共有している					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・日々の記録から、こどもの適応行動の状況を確認している	・ある課題に対する支援を時系列で追えるような行動観察記録があれば更に良い				

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・令和6年4月より、本人支援の5領域、移行支援、家族支援、地域支援を踏まえた個別支援計画の作成を行っている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・全職員参加では無いが、複数の職員で活動プログラムを決めている	・ミーティング時に、活動プログラム話し合うと更に意見が出ると思う
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・様々なイベントを定期的に行っている	・成長に応じて、活動プログラムを変えても良い
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別活動と集団活動を、組み合わせているものの、集団活動が難しい利用児童が多いので、少しでも参加できるように工夫している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・朝礼で話し合いを行っている。役割分担については、予め決めなくても、お互いが自然に協力しあって支援を行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	・送迎の時間の関係や、パート職員の退社時間の関係で、支援終了後に揃って打ち合わせをする時間が無いが、必要に応じて支援中や翌日の朝礼等で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日々の記録を取っている。支援の検証・改善については、主に話し合いで行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・児童発達支援管理責任者だけでなく、なるべく多くの職員で定期的にモニタリング会議を行って、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・なるべく組み合わせている	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・自己選択が難しい児童も多いので、分かり易く聞いている。返事がなかったり、曖昧でも、なるべく本人に決定してもらっている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校との情報共有や連絡調整は、メール等や下校時に、先生と常に行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・児童発達支援事業所の職員に来て頂き、アドバイスや引き継げる支援は引き継いでいる	・全部の児童発達支援事業所ではないので、アポイントをとって、順次、全部の児童発達支援事業所と情報共有に努める
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		・情報共有はしたいと思いますが、現状では学校と移行先の事業所、本人、保護者のみで、放課後等デイサービスが参加する余地がありません。卒業生とも繋がりをもちたいです。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・主な相談支援事業所が、地域の児童発達支援センターを兼ねているため、助言等を頂いている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		・重症心身障害児が主なため、なかなか機会を作ることは難しいと思われますが、地域の図書館を訪問した際に他の子どもたちと触れ合うことはありました。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・重心部会や子ども部会に、都合がつく限り参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・連絡ノートや送迎時に保護者に日々の様子を伝えている	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に契約書、重要事項説明書で説明している。今後は、支援プログラムも合わせて説明する予定	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画策定会議の際に、こどもや家族の意向を確認する機会を設けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画策定会議の際に、説明して同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・個別支援計画策定会議の際に、必要に応じて助言したり、送迎時に話を伺っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・今のところ苦情は無いが、対応の体制が整っており、必要に応じて周知する予定	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ここあ通信を季刊で発行している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・地域住民との繋がりが無いため、今後、何らかの方法で周知していきたい
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・定期的に避難訓練を行い、風水害マニュアルや洪水時避難計画など作成している。また、救急搬送先の確認や対応の仕方を保護者に確認している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・非常災害対策計画及び業務継続計画（BCP）を作成し、職員に周知しているものの、定期的な避難訓練のみ行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・緊急時の対応や、発作時の対応など保護者と話し合い、取り決めをしている	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・主に保護者から、アレルギーと対応方法を聞き取りをしている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・特に危険を感じるような環境ではないが、全社で安全管理研修を行い、ヒヤリハットの共有など安全管理対策を行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットの記入、報告を随時行い、すぐにその場で共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・年に数回、虐待防止委員会による研修を行っている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・虐待防止研修と共に、身体拘束適正化についての研修も行い、記録の整備や保護者への説明など適正な措置を行っている	